

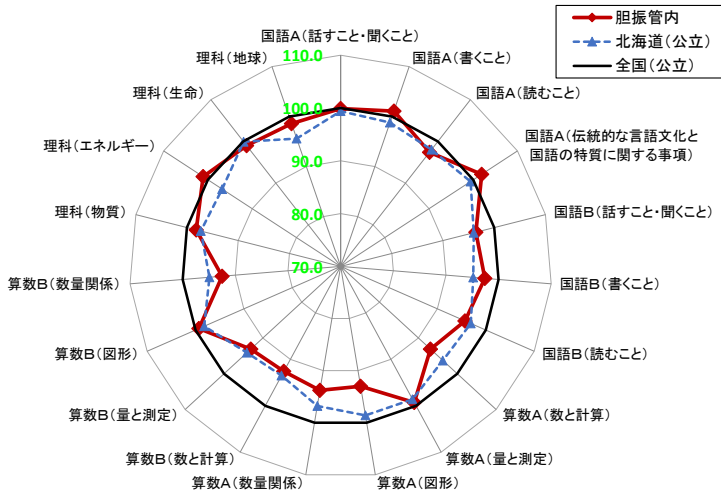
### ■小学校の状況(学校数:74校、児童数:3035人)

#### 【平均正答率】

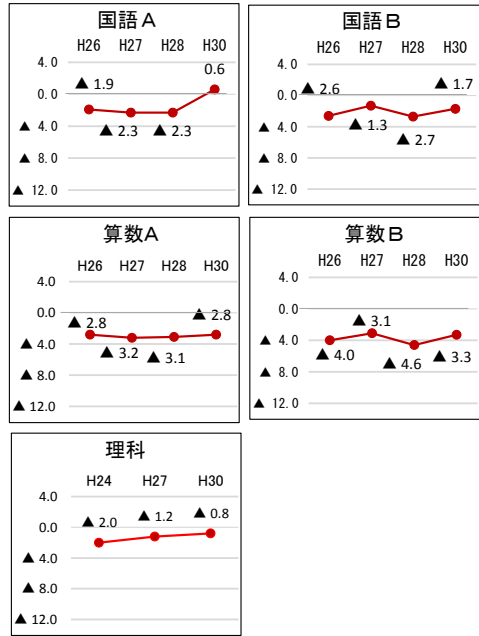
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
胆振	71[71.3]	53[53.0]	61[60.7]	48[48.2]	60[59.5]
全国	71[70.7]	55[54.7]	64[63.5]	52[51.5]	60[60.3]

#### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



#### 【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

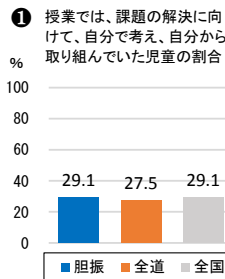


※「管内の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の経年変化  
 ※H29は、学力調査実施日における暴風・大雨の影響で、全体の児童数に対して、当日実施した学校の児童の割合が5.7%であり、管内全体の状況を示すことができないため掲載していません。

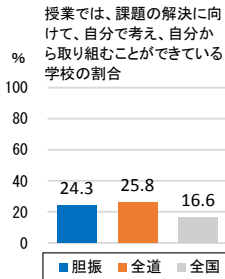
#### 【質問紙の状況】

##### 指導方法

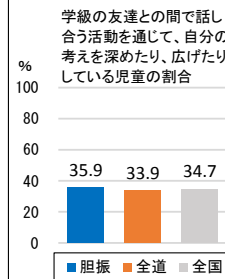
###### \* 児童質問紙



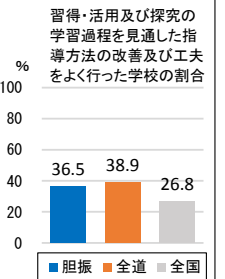
###### \* 学校質問紙



###### \* 児童質問紙

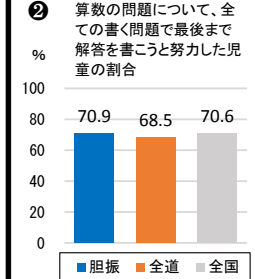


###### \* 学校質問紙



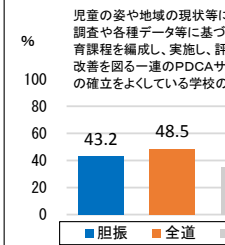
##### 学習意欲

###### \* 児童質問紙

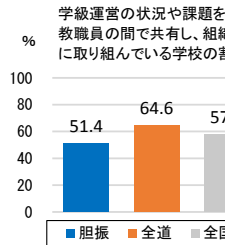


##### カリキュラム・マネジメント

###### \* 学校質問紙

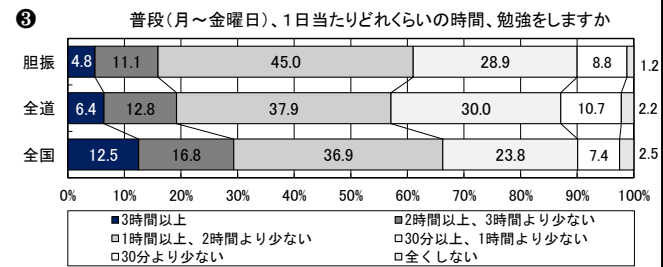


###### \* 学校質問紙



##### 学習習慣

###### \* 児童質問紙



#### 【分析及び改善の方向性】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国と比較し、国語Aの「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、理科の「エネルギー」で上回っている。</li> <li>○ 全国と比較し、国語B、算数A・Bの全ての領域で下回っている。特に、国語Bの「読むこと」、算数Aの「図形」で差が大きいことから、指導計画及び指導方法の工夫改善に取り組む必要がある。</li> </ul>
質問紙	<p>① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童の割合は29.1%で、全国と同じ、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている学校の割合は24.3%であり、全国を上回っているが、4.8ポイントの差があることから、単元を見通して、見通しを立てたり、振り返ったりして、学びや変容を自覚できる場面などを設定する必要がある。</p> <p>② 算数の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童の割合は70.9%であり、全国を上回っているが、今後も学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、振り返って次につなげる主体的な学びを一層充実する必要がある。</p> <p>③ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合は60.9%であり、全国を下回っていることから、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導するなど、家庭と連携を図り、家庭学習の習慣の確立に向けた取組を進める必要がある。</p>

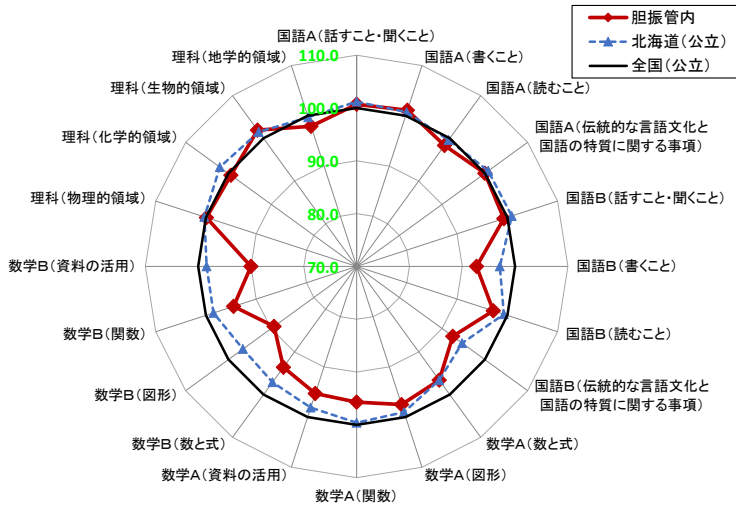
## ■中学校の状況(学校数:42校、生徒数:2949人)

### 【平均正答率】

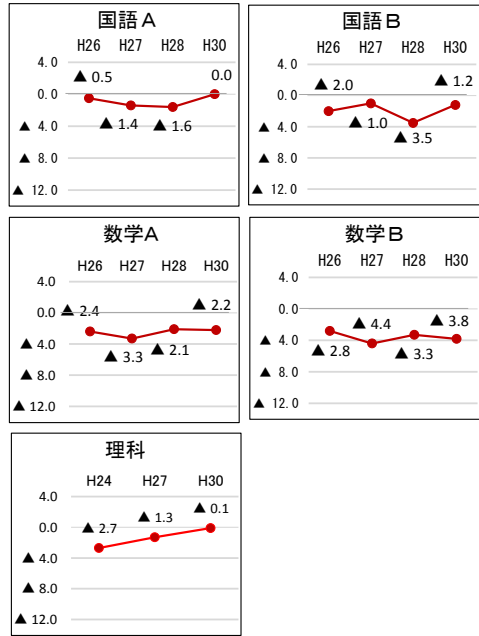
	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
胆振	76[76.1]	60[60.0]	64[63.9]	43[43.1]	66[66.0]
全国	76[76.1]	61[61.2]	66[66.1]	47[46.9]	66[66.1]

### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したものと全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出



### 【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

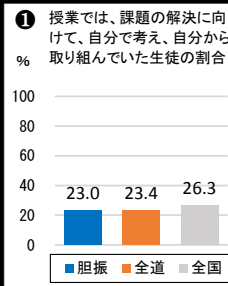


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化  
 ※ H29は、学力調査実施日における暴風・大雨の影響で、全体の生徒数に対して、当日実施した学校の生徒の割合が4.5%であり、管内全体の状況を示すことができないため掲載していません。

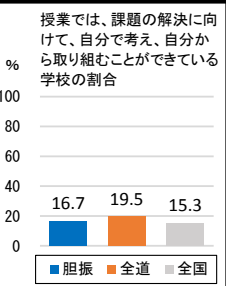
### 【質問紙の状況】

#### 指導方法

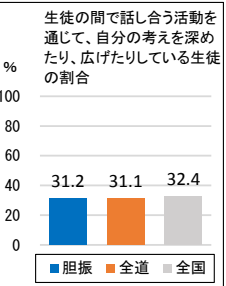
##### \* 生徒質問紙



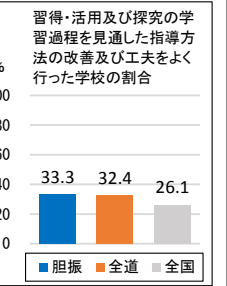
##### \* 学校質問紙



##### \* 生徒質問紙

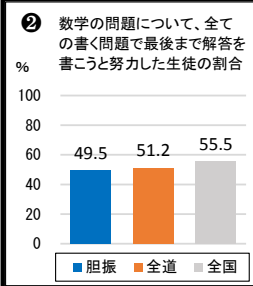


##### \* 学校質問紙



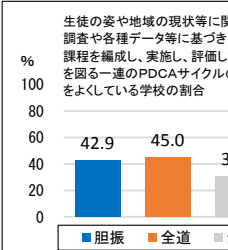
#### 学習意欲

##### \* 生徒質問紙

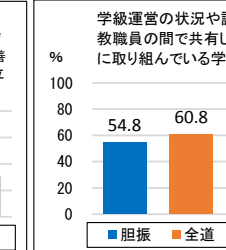


#### カリキュラム・マネジメント

##### \* 学校質問紙

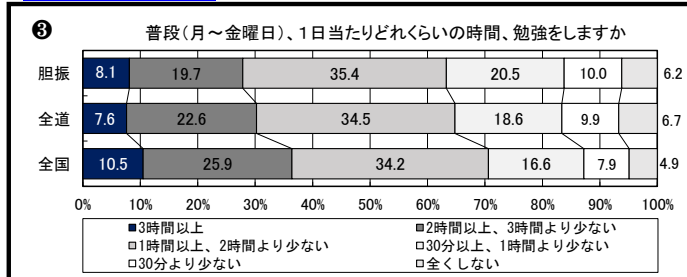


##### \* 学校質問紙



#### 学習習慣

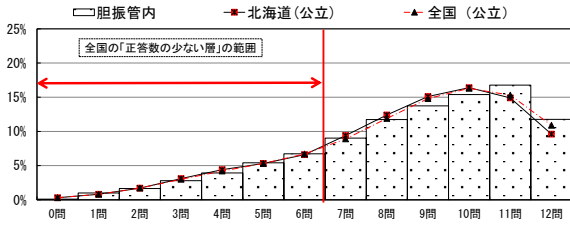
##### \* 生徒質問紙



### 【分析及び改善の方向性】

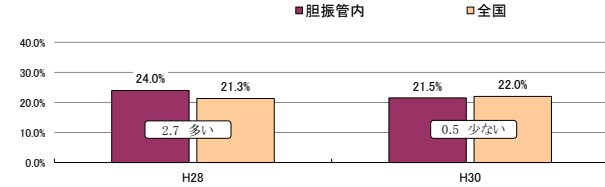
教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国と比較し、国語Aの「話すこと・聞くこと」「書くこと」、理科の「生物的領域」で上回っている。</li> <li>○ 全国と比較し、国語B、数学Bの全ての領域で下回っている。特に、国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、数学Bの「図形」で差が大きいことから、指導計画及び指導方法の工夫改善に取り組む必要がある。</li> </ul>
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた生徒の割合は23.0%、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる学校の割合は16.7%であり、学校質問紙調査では全国を上回っているが、6.3ポイントの差があることから、単元を見通して、見通しを立てたり、振り返ったりして、学びや変容を自覚できる場面などを設定する必要がある。</li> <li>② 数学の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合は49.5%であり、全国を下回っていることから、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、振り返って次につながる主体的な学びを一層充実する必要がある。</li> <li>③ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している生徒の割合は63.2%であり、全国を下回っていることから、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導するなど、家庭と連携を図り、家庭学習の習慣の確立に向けた取組を進める必要がある。</li> </ul>

小学校国語A					
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	3,035	8.6 / 12	71.3	9.0	2.7
北海道(公立)	39,610	8.4 / 12	70.1	9.0	2.6
全国(公立)	1,030,025	8.5 / 12	70.7	9.0	2.7

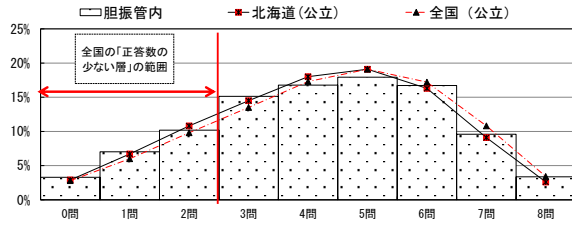


●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

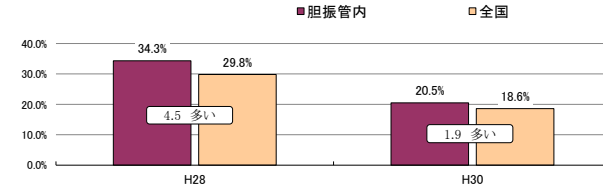


小学校国語B					
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	3,034	4.2 / 8	53.0	4.0	2.0
北海道(公立)	39,599	4.2 / 8	52.7	4.0	1.9
全国(公立)	1,029,799	4.4 / 8	54.7	5.0	1.9

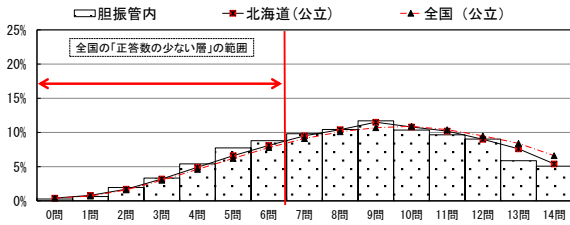


●全国の「正答数の少ない層」は、2問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

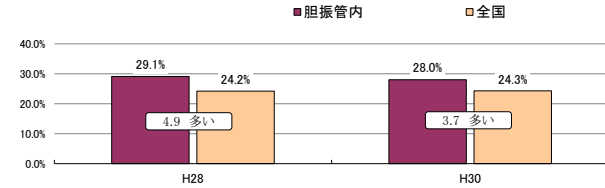


小学校算数A					
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	3,036	8.5 / 14	60.7	9.0	3.1
北海道(公立)	39,610	8.7 / 14	62.2	9.0	3.2
全国(公立)	1,030,013	8.9 / 14	63.5	9.0	3.2

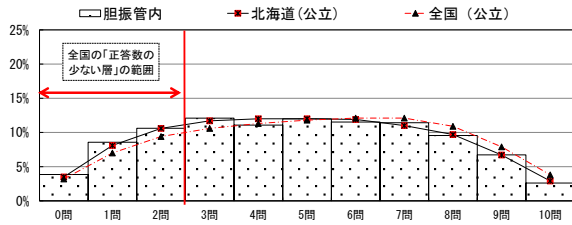


●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

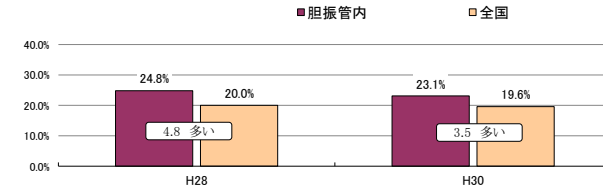


小学校算数B					
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	3,036	4.8 / 10	48.2	5.0	2.6
北海道(公立)	39,603	4.9 / 10	48.7	5.0	2.6
全国(公立)	1,029,847	5.1 / 10	51.5	5.0	2.7



●全国の「正答数の少ない層」は、2問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

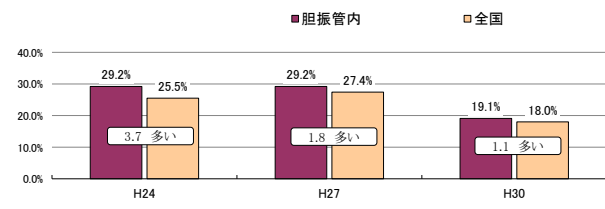


小学校理科					
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	3,036	9.5 / 16	59.5	10.0	3.2
北海道(公立)	39,617	9.4 / 16	58.8	10.0	3.1
全国(公立)	1,029,828	9.6 / 16	60.3	10.0	3.2



●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

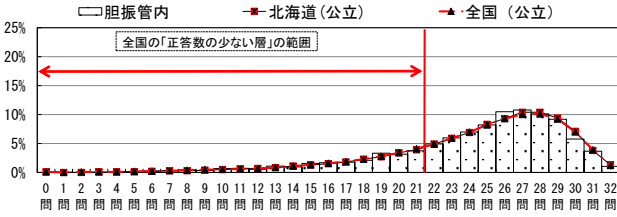
全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



※ H29は、学力調査実施日における暴風・大雨の影響で、全体の児童数に対して、当日実施した学校の児童の割合が5.7%であり、管内全体の状況を示すことができないため掲載していません。

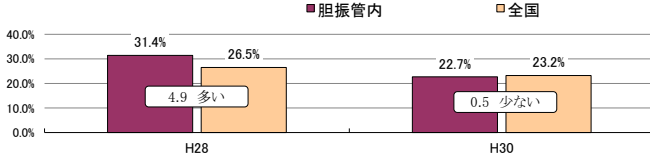
### 中学校国語A

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,949	24.3 / 32	76.1	26.0	5.1
北海道(公立)	39,656	24.5 / 32	76.6	26.0	5.1
全国(公立)	966,764	24.3 / 32	76.1	26.0	5.3



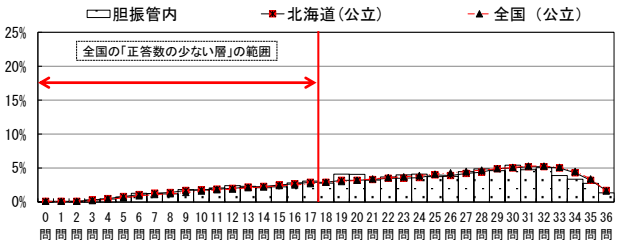
●全国の「正答数の少ない層」は、21問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



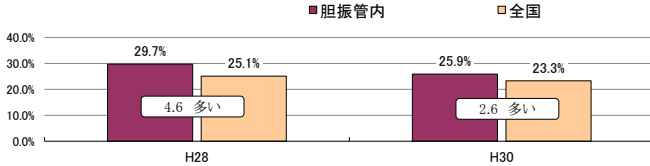
### 中学校数学A

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,949	23.0 / 36	63.9	24.0	8.1
北海道(公立)	39,665	23.4 / 36	64.9	25.0	8.3
全国(公立)	966,969	23.8 / 36	66.1	25.0	8.1



●全国の「正答数の少ない層」は、17問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



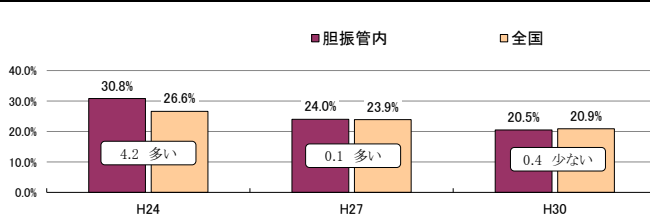
### 中学校理科

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,947	17.8 / 27	66.0	19.0	5.0
北海道(公立)	39,683	18.0 / 27	66.7	19.0	5.1
全国(公立)	967,188	17.9 / 27	66.1	19.0	5.2



●全国の「正答数の少ない層」は、13問以下の正答数

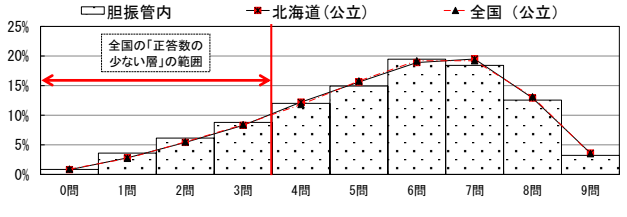
全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



※ H29は、学力調査実施日における暴風・大雨の影響で、全体の生徒数に対して、当日実施した学校の生徒の割合が4.5%であり、管内全体の状況を示すことができないため掲載していません。

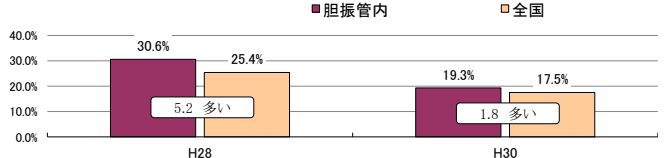
### 中学校国語B

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,947	5.4 / 9	60.0	6.0	2.1
北海道(公立)	39,654	5.5 / 9	61.2	6.0	2.0
全国(公立)	966,786	5.5 / 9	61.2	6.0	2.0



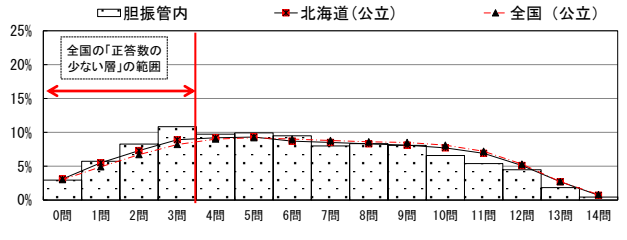
●全国の「正答数の少ない層」は、3問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



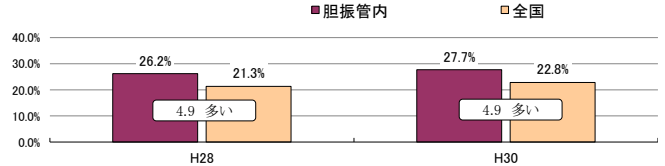
### 中学校数学B

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,952	6.0 / 14	43.1	6.0	3.4
北海道(公立)	39,671	6.4 / 14	45.8	6.0	3.5
全国(公立)	966,908	6.6 / 14	46.9	7.0	3.5



●全国の「正答数の少ない層」は、3問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



【参考】【平成27年度(小学校)】全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

#### 小学校国語A

胆振管内	全国
33.2%	29.4%
全国との差 3.8多	
H30中3 : 0.5少ない	

#### 小学校国語B

胆振管内	全国
28.3%	26.5%
全国との差 1.8多	
H30中3 : 1.8多	

#### 小学校算数A

胆振管内	全国
27.3%	21.7%
全国との差 5.6多	
H30中3 : 2.6多	

#### 小学校算数B

胆振管内	全国
28.4%	25.2%
全国との差 3.2多	
H30中3 : 4.9多	

#### 小学校理科

胆振管内	全国
29.2%	27.4%
全国との差 1.8多	
H30中3 : 0.4少ない	